

## 黒毛和種去勢における飼養管理実態調査

伊東克久・一野俊彦・大野人見・橋爪義昭(大分県畜産試験場・大分県畜産課)

ITO, K., T. ICHINO, H. OHNO and Y. HHASHIZUME: Survey of Feeding and Management Practice on Fattening Steer of Japanese Black Cattle

肉質向上につながる飼養管理技術の解明を行うため、県下全域から24戸の黒毛和種去勢肥育農家を選定し、肥育方法の実態調査を実施したので、その結果を報告する。

## 1. 調査の方法

調査地域は、県下肥育地域の全域を下記の条件により選定し、1980年11月から12月に調査を実施した。

(選定条件)

- 1) 枝肉による販売を主としている肥育農家。
- 2) 1980年の枝肉販売成績が判明できる肥育農家。
- 3) 各地域において、常時枝肉格付成績の良好な農家と良好でない農家を選定し、地域内に両者が存在する。
- 4) 同一地域において4戸選定。

第1表 肥育期間と増体量

区分 グループ別	平均		出荷量	上物率
	肥育期間	1日平均増体量		
H G	17.4ヵ月	0.68 kg	616.7 kg	44.4%
L G	18.7	0.65	623.9	18.7
平均	18.4	0.66	622.1	25.0

## 2. 調査結果

調査結果は、第1表に示すとおり肉牛出荷成績と飼養管理方法との関連性をみる必要から、格付成績の良好な農家群(以下HGと記す)と、良好でない農家群(以下LGと記す)の2つの農家群にわけて集計を行い、HGは調査戸

数7戸、出荷頭数169頭、LGはそれぞれ17戸、692頭であった。

肥育期間および増体量は第1表に示した。上物率の低い農家群に肥育期間を延長し、出荷時体重を大きくして、1頭当たりの販売価格を高くする傾向があった。またこのことは、出荷時体重を大きくすることが、肉質を向上させることにはつながらないことが確認された。

濃厚飼料の給与割合を肥育期別、種類別に第2表に示した。LGはほとんどの農家が肥育用配合を中心にして、大麦胚もとフスマの単味飼料を追加給与する方法であり、HGは中期～後期にかけて、大麦胚との給与割合を次第に多給する傾向があった。

飼養管理方法および環境条件などの調査結果を第3表にまとめた。牛房、牛床の乾燥程度はHGがLGに対して、やや良い傾向と判断された。管理方法は、肥育の全期間または中期～後期において、繋留方法を行っている農家がHGに多くみられ、個体管理を充分にし、仕上期における肥育管理に注意を払っていることがうかがわれた。また1群頭数については、HGは5.4頭、LGは8.4頭の群編成でありLGの方が多く、しかも1頭当たり牛床面積でもLGが狭くなっており密飼であった。

以上報告した技術的問題点を今後の肥育技術改善に資することとし、当場の肥育試験にこれらを参考として、検討する必要が認められた。

第2表 飼料給与状況および飼料効率

(単位: %)

区分 グループ別	肥育期別・種類別濃厚飼料給与割合									1頭当たり濃厚飼料給与総量	1kg増体に要する濃飼量
	大麦胚(トウモロコシ)			フスマ			肥育用配合				
	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期		
H G	10	40	55	40	30	20	50	30	25	3,650kg	10.2kg
L G	10	25	45	40	25	15	50	50	40	3,660	10.1

第3表 飼養管理の状況

(単位: 戸)

区分 グループ別	項目	牛房・牛床の乾燥度			管理方式		平均1群頭数	1頭当たり牛床面積
		よ	い	ふつう	悪い	群飼		
H	戸数	1	5	1	2	5	5.4頭	3.6㎡
G	(構成比)	(14)	(72)	(14)	(12)	(88)		
L	戸数	2	10	5	13	4	8.4	3.1
G	(構成比)	(12)	(59)	(29)	(76)	(24)		